

## [普及事項]

成果情報名：生産者向けアスパラガス半促成栽培マニュアルの作成

研究機関名 農業試験場 野菜・花き部 野菜担当  
生産環境部 病害虫担当

担当者 篠田光江・齋藤隆明・他1名

## [要約]

生産者を対象に、秋植えと春植えについて、それぞれ定植から2～3年目までの管理方法を年毎に示し、主要な病害虫について、重点防除時期を考慮した薬剤防除体系例を掲載したアスパラガス半促成栽培マニュアルを作成した。

## [キーワード]

アスパラガス・半促成栽培

## [普及対象範囲]

県内全域

## [ねらい]

アスパラガス半促成栽培は、県内で急速に増加しており、令和4年度には系統出荷量全体の13%を占めるまでになっている。平成29年度には、県内への導入を進めるため栽培指導者向けに「アスパラガスハウス半促成栽培マニュアル」（平成29年度実用化できる試験研究成果）を作成した。県内で取り組む生産者が多くなってきたため、生産者向けの栽培マニュアルを作成する。

## [成果の内容及び特徴]

- 1 本マニュアルは生産者を対象とし、「生理生態・栽培のポイント・品種」、「栽培方法」、「病害虫防除」、「現地事例」から構成される（データ省略）。
- 2 半促成栽培は、露地栽培よりも収穫や栽培管理の期間が長く、栽培時期によりハウス内気温、かん水回数や量を変えていく必要がある。栽培経験の浅い生産者でも管理作業を適時に行えるように年間スケジュール表を掲載している（図1）。
- 3 栽培暦は、現地で増えつつある秋植えと従来の春植えについて掲載している（図2）。
- 4 病害虫防除は、斑点性病害（褐斑病、斑点病）は発生前～初発時である6月中旬、ネギアザミウマは若茎への被害が出始める6月上旬から薬剤防除を開始するなど、薬剤防除のポイントを解説するとともに重点防除時期を考慮した薬剤防除体系（例）を掲載している（図3）。

## [成果の活用上の留意点]

本マニュアルは200部発行し、県内のアスパラガス生産者、作付け希望者及び指導機関に配布する。

[具体的なデータ等]

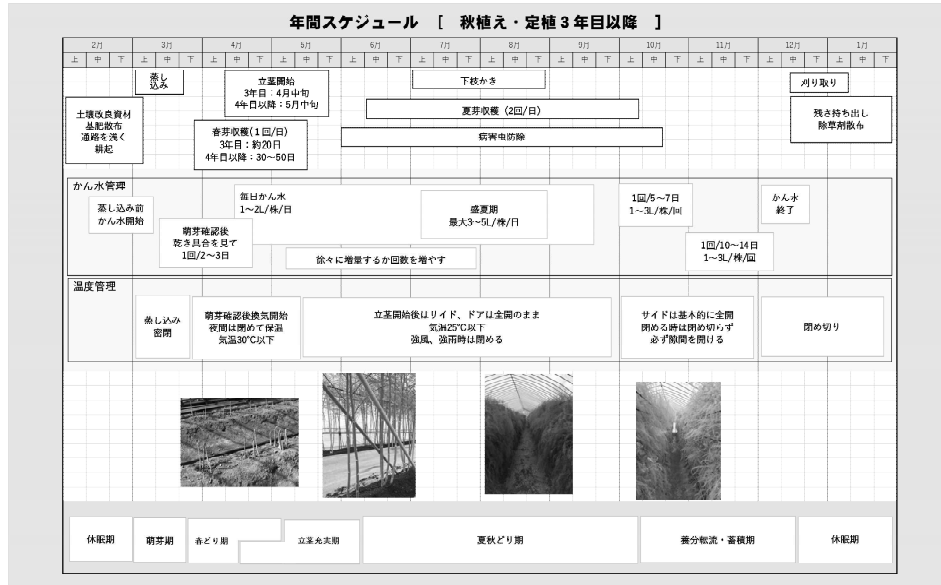


図1 年間スケジュール (秋植え・定植3年目以降)

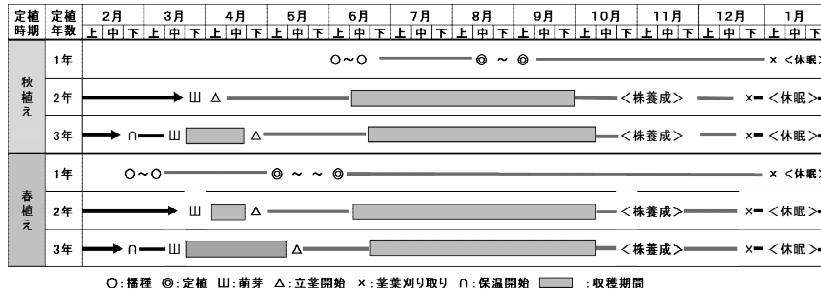


図2 秋植えと春植えの栽培暦

時期	殺虫剤			殺虫剤			
	RAC コード	農薬名	希釈倍数	RAC コード	農薬名	希釈倍数	
6月	10日	-		5	スピノエース顆粒水和剤	5,000	
	15日	M5	ダコニール1000	1,000	-		
	25日	3	ラリール水和剤	4,000	34	フィンセーフフロアブル	2,000
7月	10日	2	ロブラール水和剤	2,000	9B	コルト顆粒水和剤	4,000
	25日	M1	コサイド3000	2,000	4A	モスピラン顆粒水剤	4,000
8月	10日	M5	ダコニール1000	1,000	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000
	25日	M1	コサイド3000	2,000	4A	スタークル顆粒水剤	2,000
9月	10日	M1	コサイド3000	2,000	5	ディアナSC	5,000
	25日	7	アフエットフロアブル	2,000	30	グレーシア乳剤	2,000
10月	10日	M5	ダコニール1000	1,000	4A	モスピラン顆粒水剤	4,000

・令和5年11月1日時点での登録内容に基づいて作成  
・薬剤の詳細はP31を参照  
重点防除時期

図3 薬剤防除体系(例)

[その他]

- 研究課題名：①野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発  
 ②先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の開発  
 ③“あきたの野菜”手取りアップ総合推進事業

研究期間：①、②(令和元年度~令和5年度)、③(令和5年度)

予算区分：①、②県単、③配当(園芸振興課)

掲載誌等：アスパラガス半促成栽培マニュアル(2024)